

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	認定特定非営利活動法人 Learning for All 代表理事 李炯植
事業名	行政と民間が一体となって子ども支援に取り組むための土壌を形成するプロジェクト(おなかまプロジェクト)
事業所管課	こども相談支援課
事業内容	【第1回】6月28日(金) 9:00~12:00 参加人数: 22人 場 所: アマブラリ1階多目的室 テーマ: おなかまのお仕事紹介 【第2回】8月23日(金) 9:00~12:00 参加人数: 23人 場 所: アマブラリ1階多目的室 テーマ: 行政と民間の連携のあり方を考える(事例検討) 【第3回】10月25日(金) 9:00~12:00 参加人数: 12人 場 所: Hygge、阪神尼崎 b&g テーマ: 出張おなかま(LFA 編) 【第4回】12月20日(金) 9:00~12:00 参加人数: 37人 場 所: アマブラリ1階多目的室 テーマ: 教育と福祉の連携に向けて 【第5回】3月 7日(金) 9:00~12:00 (予定) 場 所: アマブラリ1階多目的室 テーマ: 振り返り&今後に向けて 【映画上映会】3月10日(月) 15:00~17:20 (予定) 3月12日(水) 18:00~21:00 (予定) 作 品: 「さとにきたらええやん」 【視察ツアー】3月17日(月) 13:00~14:30 (予定) 場 所: NPO 法人こどもの里 「児童虐待や不登校、ひきこもり、また、発達障害、生活に課題や困難を抱える子ども、障害のある子どもなどの社会的支援を必要とする子どもが健やかに育つために、多様な関係機関で切れ目なく支援・連携がとれている状態にすること」を目的に、いくしあ(子どもの育ち支援センター)および Learning for All において、行政・民間参加型の民間主体の子ども支援ネットワークの構築のために、公民合同の交流会・研修会・会議を年間合計5回実施する

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする

A (よくできた)、B (まあまあできた)、C (あまりできなかった)、D (まったくできなか

った)

- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	A
その他（契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	1. 開催回数:年5回 2. 参加民間団体数:10団体 3. 参加行政職員数:10名 4. 継続参加率:50%以上 ※第5回目は3/7(金)に実施するため第4回までの実績に基づき評価を行う
	測定方法	1. - 2. 全5回を通じた参加民間団体のユニーク数（参加団体数） 3. 全5回を通じた参加行政職員のユニーク数（参加人数） 4. 全5回の研修会に2回以上参加した人の割合
	結果	1. <u>5回</u> ※第5回目は3/7(金)に実施することが決定している 2. <u>12団体*</u> 3. <u>30名</u> 4. <u>52%</u>

		協働事業における役割分担として、民間団体への参加周知を Learning for All が、行政職員への参加周知を所管課が行った。民間団体は 12 団体、行政職員は 30 名が参加し、いずれも目標値を上回る結果となった。特に、民間団体については、市と業務委託実績のある団体に加え、業務委託実績のない 4 団体に参加することとなり協働事業としての強みを発揮できたと考えている。継続参加率は 52%と目標を達成することができたが、残りの 48%の方が 1 回のみ参加という結果については、課題であると考えている。 *参加団体内訳 尼崎ユースコンソーシアム つどい場けあ・わーく たじかの園 尼崎市社会福祉協議会 心の輝き合同会社 母子生活支援施設 サン野菊尼崎 一般社団法人ポノポノプレイス NPO 子どものみらい尼崎 すと・らっと相談支援センター TNS カンパニー 児童ホームつくし Learning for All
2	評価指標	アンケートによる満足度:平均 3.5 以上 ※第 5 回目は 3/7(金)に実施するため第 4 回までの実績に基づき評価を行う
	測定方法	研修会後に実施するアンケートに下記 2 項目を設定し、その平均値を算出 1. 「本日の内容はどの程度役立ちそうですか？」（5 段階評価*） 2. 「本日の目的はどの程度達成できましたか？」（5 段階評価**） *1.十分役に立つ（5 点） 2.ある程度役に立つ（4 点） 3.どちらとも言えない（3 点） 4.あまり役に立たない（2 点） 5.全く役に立たない（1 点） ** 1.達成できた（5 点） 2.ある程度達成できた（4 点） 3.どちらとも言えない（3 点） 4.あまり達成できなかった（2 点） 5.達成できなかった（1 点）
	結果	1. 「本日の内容はどの程度役立ちそうですか？」：平均 4.6/回 2. 「本日の目的はどの程度達成できましたか？」：平均 4.3/回 項目 1 の結果は、参加者がおなかまプロジェクトに期待していること

	や、子ども支援において感じている問題意識等のニーズに沿って研修を企画できていることの成果であると捉えている。 項目 2 の結果は、企画の狙いや目的に応じた企画内容を提供できていることの成果であると捉えている。
--	--

3 総合評価

協働側面の評価
事業計画（準備）段階において、協働事業としての「おなかまプロジェクト」の意義や目標について意見交換をしながら目標設定や計画づくりを行うことができた。Learning for All の強みである民間団体との人脈・顔の繋がり、現場運営を通じた支援者との信頼関係、研修企画運営の実績や、所管課の強みである行政内のネットワーク・調整力、いくしあ内の協力体制を活かし、相互理解と役割分担の下で事業を進めることができたことを確認した。1 年間の協働事業の実施を通じて、より相手方及び自組織の強み・弱みの理解を深めることができたため、次年度は、双方がどのように補い合えるか協議した。 事業実施段階において、問題や予定外のことが起きたときに「おなかまプロジェクト」の目的やゴールに沿うように、互いの立場からの意見を共有し、最善の解決策を探ることができた。 一方で、話し合いや振り返りの機会の設定やその場での問題提起は Learning for All が行っていたため、「おなかまプロジェクト」の行政内での周知や、欠席者の多い所属へのアプローチなど所管課が担当している取り組みの状況や課題が見えにくく、タイムリーに進捗を把握できないことがあった。取り組みの進捗が芳しくない時に、Learning for All から所管課に対して踏み込んだ状況確認や改善提案を行うことができない場面もあった。今後は、取り組みの進捗共有や問題提起、課題設定については役割分担上の Learning for All もしくは所管課の担当者が主導すること、年度当初から定期的に意見交換や振り返りをする機会を設けられると良いと意見共有を図った。 また、市としては民間団体と一緒に事業運営することで、Learning for All の打ち合わせや企画の進行、研修会の運営方法について学びがあった。事業の目的やゴール沿った効果や社会的なインパクトが得られているかを確認していくことも重要であるが、協働事業としてこのような付加価値についても把握していくことの意義を感じた。
事業効果の評価
■達成できたこと・原因 参加者の声を反映する形で、全 5 回の研修会を実施することができた。 参加者の中から実行委員会（名称：おなかま作り隊）を組成し、実行委員会を中心に企画を行うことができたことは、今年度の成果であると考えている。実行委員会は、民間団体、行政職員、今年度から参加した方、参加歴 3 年目になる方などから構成されている。立場や状況の異なる参加者の声から企画検討できたことや、研修会後には企画内容や運営方法について振り返りを行い

改善できたことが、参加者の満足度向上に繋がっていると考えている。

協働事業として今年度から周知対象を広げた結果、民間団体と行政職員ともに参加者が増加した。民間団体については「おなかま紹介制度」を導入し、すでにおなかまプロジェクトに参加している参加者から、おなかまプロジェクトへの参加を勧めたい事業者に対して声かけを行う仕組みを整えた。おなかま紹介制度を活用して、4 団体から計 7 名の方が新たに参加した。行政職員については、年度当初に「おなかまプロジェクト説明会」を実施し、各課から参加者を決めてもらうよう案内をしたことで、各課・担当に満遍なく参加者を募ることができた。

■達成できなかったこと・原因・対策等

民間団体職員、行政職員ともに、途中から連続欠席する方が複数人いたことが課題であった。途中から参加しなくなった理由やその背景について、民間団体・行政両方の視点から課題を明らかにしていく必要がある。現在の参加者に対して、参加のメリットとして感じていることや、周りの職員が参加する上で課題になっていること等についてヒアリングを行う予定としており、企画改善や参加難易度のハードルを下げる取組を行っていく。

また、既存の参加者からは、子ども支援において連携することの多い児童ケースワーカー、スクールソーシャルワーカーに多く参加してもらいたいとの声があるものの、参加人数が伸びないことも課題としてあげられた。加えて、保健福祉センターに所属している職員（生活保護のケースワーカーや保健師等）や学校の先生にも参加して欲しいという声も多数あがったが、現時点で参加には至っていない。

これらの課題を踏まえ、次年度は参加人数の増加や周知先の拡大について、効果的な手法の検討を進めていきたいと考えている。

総評

本事業の目的に近づくために、民間主導で協働事業としてのネットワークの構築を進められた 1 年間であった。「①関係機関同士で顔の見える関係になる」「②多機関での支援スキルの全体が底上げされる」ことに注力した 1 年間であった。結果として、協働事業実施前に比べて多くの民間団体や行政職員が参加し、参加者数や参加者の多様性の広がりにつながった。参加者が回答したアンケートには「対面で話すことができ〴〵知りあい〴〵になれたかなと思っています。何かききたいことあれば〴〵きいてみよう〴〵と思えるようになりました。」「顔を知り、他愛もない話の中で相手を知ることによって相談するときのハードルが下がった。」などの感想があり、顔の見える関係になることの大切さや意義を参加者が実感していることがわかった。

企画運営については、参加者同士の良好な関係構築につなげたい、ケース検討を通して支援の考え方を広げたい、といった参加者の声を重視したことにより、参加者の満足度の向上につながる結果となった。参加者が回答したアンケートには「関係機関で役割や思いによって支援に対する見え方も変わってくる。そう言った関係機関が集まり、情報共有を行う重要性を感じた。」「それぞれの立場によって、同じ事例についての視点が違うことに、改めて気づかされました。いろいろな人の立場に立って、自分の見立てをすることが大切だと改めて感じました。」などの感想

があり、立場や役割によって視点が違って来る点に気づいたことで、多様な関係機関が子どもを支える重要性について実感していることがわかった。

今後の課題としては、「おなかまプロジェクト」の目的やゴールに照らしたときに重要となってくる関係機関やその担当者に参加してもらえる体制を作り、次年度から「③子どもの声をもとに必要な施策の提言」にも注力する。

3 収支結果（協働事業のみ）

収入の部					
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠	
	予算額	決算額			
市補助金	300,000	300,000			
寄付金など自己調達	1,574,000	1,251,214			
収入合計	1,874,000	1,551,214			
支出の部					
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠	
	予算額	決算額			
		計			うち市補助金
交通費	277,000	790	790	上映会登壇の監督交通費：790 円	
消耗品費	8,000	37,379	37,165	模造紙、付箋、ペン、グループワーク用カード、DVD プレイヤー	
印刷費	32,000	2,045	2,045	資料印刷費	
謝礼費	186,000	120,000	120,000	子どもの里視察謝礼：90,000 円 上映会監督登壇謝礼：30,000 円	
人件費	1,294,000	1,234,000	60,000	経理業務 5,000 円×12 ヶ月	
宿泊費	77,000	77,000	0		
使用料	0	80,000	80,000	上映料：80,000 円（映画を上映する際に配給会社に支払う使用料）	
支出合計	1,874,000	1,551,214	300,000	補助額に対する人件費割合： <u>20.0</u> %（委託事業は記入不要）	